

学校だより

令和8年9月1日 特別号
京都市立向島小学校
学校長 折戸 香里



令和8年年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月23日(木)に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、その結果をまとめました。実施された国語・算数、2教科の総合的な結果とその特徴を下の通り報告いたします。また、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査(児童質問紙)も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果(国語・算数)

国語・算数ともに、学習指導要領に示されている[知識及び技能]、[思考力、判断力、表現力等]の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されます。

京都府全体では全国平均を超える結果になった一方、本校では全国平均をやや下回る結果となっております。今回の結果を大いに参考とし、本校が研究主題として掲げている『学ぶ楽しさを知り、主体的に学ぼうとする子の育成』に向けて、日々の学習や授業についても教職員一同で考えていきたいと思ひます。

国語

「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」という問題では、無答率が全国平均や京都府の平均と比べて低かったです。児童が最後まであきらめないで自分の考えをまとめようと取り組めた結果です。

しかし、「話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる」という問題の正答率がかなり低く、文章の目的や形式を捉える力に課題が見られました。今後は、説明文・物語文・案内文・広告等の多様な文章に触れる機会を増やしたり、それぞれの特徴や目的を比較・分類する活動を取り入れたりしていきたいです。



算数

「小数の数の表し方や位の仕組みを理解し、示された条件に合う小数を考えて表すことができるかをみる」という問題の正答率が82.1%と非常に高かったです。

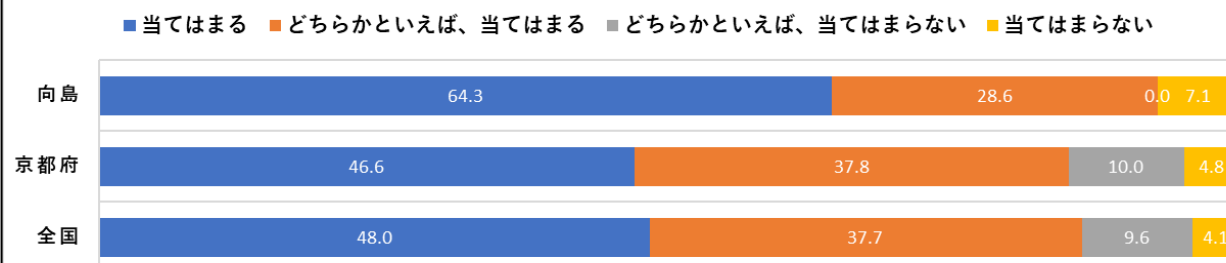
しかし、「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」の問題や「数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる」の問題で全国平均を大きく下回りました。今後は、具体物や図を用いた学習を充実させるとともに、日常生活の場面と関連付けながら、数量感覚や計算の意味の理解を深められるよう指導していきます。



児童質問紙調査から

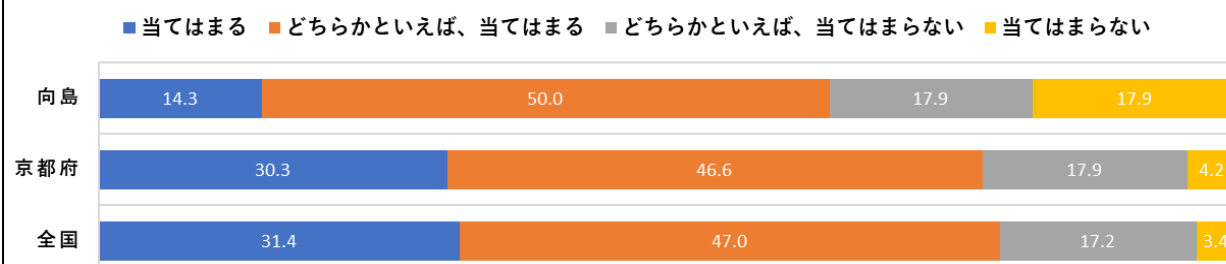
質問(15)学校に行くのは楽しいと思いますか

子どもたちが学校生活に楽しさや充実感を感じながら過ごしていることがうかがえる結果となりました。今後も、子どもたちが「学校へ行くのが楽しみ」と感じられるよう、安全で安心できる環境づくりに努めるとともに、一人一人のよさを認め合える温かな学校づくりを進めていきます。



質問(43)学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

36%近くの児童が、学習した内容を見直し次の学習につなぐことができていないと感じていました。このことから、子どもたちは授業に意欲的に取り組んでいる一方で、自分の学習を振り返り、理解したことや課題を整理しながら次の学びへ生かす力については、さらに伸ばしていく必要があると考えています。



<保護者の皆さまへ>

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習の状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

本校では、今回の結果から見えてきた成果や課題を学校内でも共有し、研修や討議を重ね、指導法や指導体制を工夫するなどして各学年の児童の学力向上に努めてまいります。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくもので、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。家庭と学校の連携をさらに深め、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりをご家庭と共に進めていきたいと考えています。今後ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。